コミュニケーション

2006・10月号

OMORIYAMA ZOO NEWS 大森山

No.73

画：佐藤一男

ワピチ（哺乳類　偶蹄目　シカ科）

別名、エルクと呼ばれる。北アメリカ、アジア東部に生息する大型のシカ。オスは体重300ｋｇ以上になり、春に角が抜け落ち新たに生え替わります。オスは、繁殖期に縄張りを宣言する鳴き声を盛んに出す。

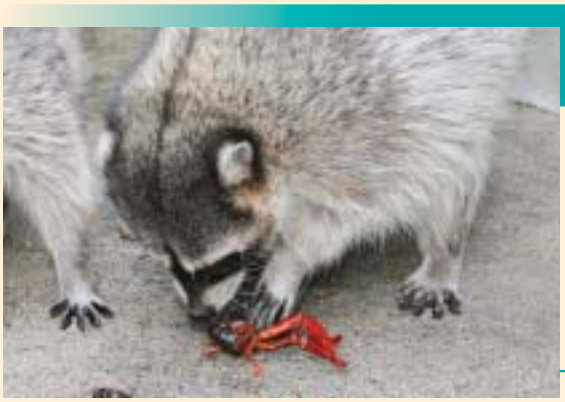
秋田市大森山動物園
Akita Omoriyama Zoo

ホット
インフォメーション

HOT INFORMATION

カンガルーの赤ちゃん まもなく誕生

カンガルーのモモに待望の赤ちゃんが産まれそう。お母さんのお腹の袋から足や尻尾が時おり出ているものの、顔はだれも確認していない。大森山動物園では３年ぶりのことで期待が高まる。

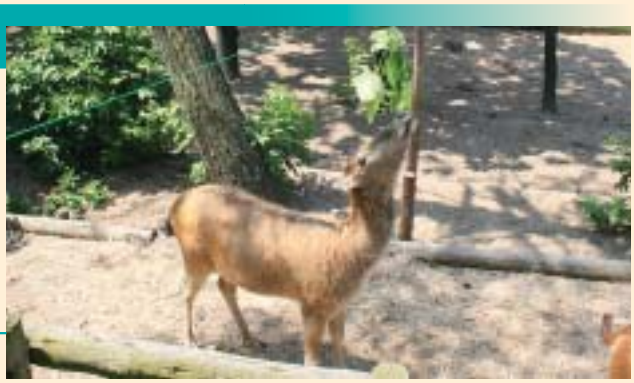


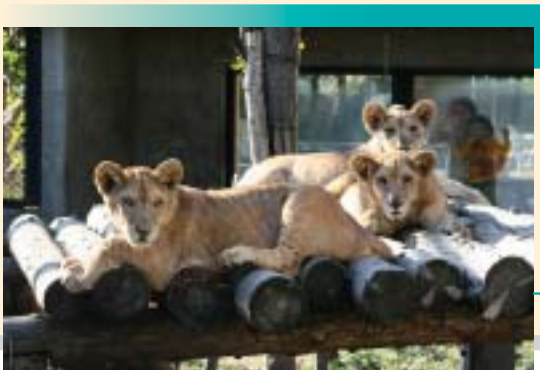
アライグマ「ゼニタナゴ保全に僕も一役買ってます」

９月から始まったアライグマのまんまタイム。園内にある塩曳潟で獲れたアメリカザリガニを与えている。塩曳潟には絶滅危惧種のゼニタナゴが生息しているが、このアメリカザリガニはタナゴが卵を産みつけるドブ貝を食べてしまう厄介者。外来種のアライグマが日本古来のゼニタナゴを守るため、外来種のアメリカザリガニ駆除に一役買っている。

シフゾウ、エサのロープウェイ

今年から有料のエサやり体験が毎日できるようになったが、こちらは不定期で無料サービス中のエサやり体験。紐の先のクリップに枝を挟み、シフゾウに近くまでエサを運ぶと嬉しそうに食べてくれる。少しだけ動物たちと触れ合った気持ちになれる密かな人気スポット。さあ、今日はやってるかな？





ライオンの赤ちゃん危機脱出

３月に産まれた三つ子の赤ちゃんの「ヴェヴェ」と「ミミ」が体調を崩し隔離された。一時は立って歩けなくなるほど体調が悪化し飼育係を心配させたが、半月後、奇跡の回復力で危機脱出。今は３頭元気に仲良く展示場内で過ごしている。

ジャズフェスタ

夜の動物園期間中の８月16日に、「ナイトＺＯＯジャズフェスタｉｎミルヴェ －守ろう秋田のゼニタナゴ－」が開催されました。この企画は、当園の塩曳潟に生息している日本固有の希少淡水魚であるゼニタナゴ（環境省指定絶滅危惧種）の保全の重要性を皆様に知って頂くためのキャンペーンイベントとして、また同時に多くの皆様で音楽を楽しむために開催されました。

ジャズ演奏は障害児者招待の部と一般来園者の部の二部構成で、それぞれ違うジャズ演奏家による多彩なプログラムとなりました。星空の下響き渡るジャズの調べに、会場のピクニック広場にいらした大勢のお客様も演奏家もすっかり一体となる盛り上がりでした。最後の曲が終わる頃には心地よい音と涼しい風にいつまでも浸っていたい、名残惜しい心持ちとなるような素晴らしい演奏会となりました。

また当日、ゼニタナゴ保全活動のための寄付を募ったところ83,387円の寄付をいただきました。どうもありがとうございました。今後のゼニタナゴ保全活動のための資金として活用させていただく予定です。

動物園におけるジャズ演奏会開催は、日本の動物園では初の試みとのことです。今後も大森山動物園ミルヴェは新しいことにどんどんチャレンジしていきたいと思いますので、皆様どうぞご期待ください!!

ジャズフェスタ実行委員会 事務局　**阿部　杏子**

訃報

トナカイ♂死亡

自ら水浴びをして暑さを乗り切ろうとするトナカイ

今年は例年にない暑さのため、暑さに弱い動物たちにとっては辛い夏でした。秋田市の最高気温が３６℃を超えた翌日の８月１８日、立派な角のトナカイのオスが熱中症のため倒れました。急いで体を冷やし体温を下げ、夕方には立てるほどに回復しましたが、翌日の朝、冷たくなって横たわっている姿が発見されました。誠に残念でなりません。

ベンガルトラ「マドンナ」死亡

９月１４日メスのベンガルトラ「マドンナ」が老衰のため死亡しました。平成元年に１歳で大森山にやってきて約１７年間、たくさんのお客さんに愛されてきました。その間、オスの寅二郎（Ｈ１６．３死亡）との間に数頭の子を残し、子どもたちは他県の動物園に送られています。晩年はアムールトラのウイッキーと仲良く過ごしていましたが、８月下旬に体調を崩し治療の甲斐無く半月後に息をひきとりました。

在りし日のマドンナ（左）と寅二郎（右）

シリーズ❶

特集 暑さ対策

今年の夏は、ごぞんじのとおり猛暑でした。みなさんはどうやって暑さをしのいだでしょうか？今回は、動物園の動物でみられる暑さ対策についてご紹介いたします。

飼育展示担当　西 村　裕 之

鳥類や哺乳類の体には、気温の変化による影響をできるだけ小さくするよう体温を一定に保つための仕組みがあります。
では、動物の体は、どんなふうにして暑さに対応しているのでしょうか？

1 体温を下げるための体のしくみ

汗

暑い時、私たちは汗をかきます。汗をかくことは、暑さに対する体の自然な反応です。

汗は体の表面にある汗腺から分泌されますが、成分のほとんどは水分と塩分です。汗が蒸発するときに熱が奪われて、体が冷やされるのは、みなさんご存知のことと思います。

テレビの競馬中継で、走った後に全身に水を浴びたかのように汗をかいている馬の姿をご覧になったことのある方もいらっしゃるかもしれません。（凱旋門賞のディープインパクトは残念でした…。）

ところが馬は動物の中では例外の存在であるといえます。動物の多くは汗腺が未発達で汗をかくことができないため、汗をかいて体温を下げることは困難です。

したがって、動物の体には他の方法で体温を下げるためのさまざまなしくみが見られます。

体のつくり

大森山動物園で飼育展示している動物で、暑い所に棲む動物の代表はアフリカゾウです。ゾウの体の特徴は長い鼻と大きな耳ですが、よく見ると耳の裏側にはたくさんの血管が走っています。うちわを耳に見立てると、うちわの骨組の部分が血管にあたると考えていただいて結構です。

夏場の暑いときには、大きな耳をそれこそうちわのようにパタパタと動かしている様子を見ることができます。これは、耳の裏側の血管を流れる血液を冷やすために耳を動かしているのです。耳で冷やされた血液は、再び体の中を巡って体温を下げます。このように、耳の裏側の血管は、いわゆる空冷装置の役割を果たしているのです。

ゾウ以外に耳が大きな動物といえば、ふれあい広場にいるウサギがいます。ゾウに比べたら体はずいぶんと小さいのですが、ウサギの体の表面積に占める耳の面積の割合は、動物の中で最も大きいのです。

ウサギが逃げるときには、時速７０キロメートル以上の速さで走ると言われていますが、これだけのスピードで走ると、当然のことながら体温は急激に上昇します。ウサギが逃げるときに耳をピンと立てて走るのは、体温の上昇を抑えるために、耳にできるだけたくさんの風が当たって血管の中を流れる血液を冷やせるようにしているからなのです。

毛

一般的に、南方に棲む動物の方が北方に棲む動物よりも、体の色が濃いと言われています。（これをグロージャーの法則といいます）

大森山動物園では、先頃までベンガルトラとアムールトラを展示していました。（残念ながらベンガルトラのマドンナは９月１４日に死亡してしまいました）

トラの体の模様は黄色地に黒色の縞ですが、注意深く観察された方は、暑い南の地域に棲むベンガルトラは寒い北の地域に棲むアムールトラに比べて黄色地が濃いことにお気づきになったと思います。

毛の濃い色は、太陽光線が皮膚に直接とどくのを防ぐ役割をしていると言われています。

逆に、極端に寒い地域に棲む動物は白い体色をしています。みなさんよくご存じのホッキョクグマや、大森山動物園でも飼育展示しているシロフクロウが、その例です。

さきほどウサギの話しをしましたが、東北地方に棲むトウホクノウサギは、夏は褐色で冬には白い毛に生え換わります。体色の変化は、外敵から身を守る保護色の役割をしているのはもちろんですが、寒い冬には太陽の光を効率良く吸収し、暑い夏には暑さから身を守る役割も果たしているのです。

呼吸

暑いときに、犬が大きく口を開けて舌をだらんと出して荒い息づかいでいる様子が見られます。吐き出す息（呼気といいます）の中には、水分が多量に含まれています。汗が蒸発するときに、熱を奪って体温を下げるお話をいたしましたが、これと同じ理由で、呼気中の水分が蒸発するときに熱を奪い体温を下げるのです。

私たちも、激しい運動の後には息づかいが荒くなりますが、それは酸素を体の中に積極的に取り込むのと同時に、運動により上昇した体温を下げる役割も果たしています。

動物園でも、暑さの苦手な動物であるトナカイやレッサーパンダなどは７月の気温が上がり始める頃から、息づかいが荒くなるのが観察されます。今年の猛暑で、８月１９日に雄のトナカイが熱中症で死亡してしまいました。

2 暑さを避ける行動

私たちは、暑いときに、日陰に入る、あるいは風通しの良い所で休むなどをしますが、動物も同じ行動をとります。

夏場は日に照らされて地面も熱くなりますが、シンリンオオカミは土を掘り下げて、ひんやりした土の上に身を横たえて体を冷やします。カンガルーでも同じ行動が見られます。

暑さを避ける行動によっても体温が下げられない動物もいますので、その場合はヒトの手で温度を下げてやらなければなりません。

扇風機

ふれあいランド内にいるウサギも暑さには強くありません。そこで動物園では、夏の間、写真のような大きな扇風機で風を送って、少しでも体温を下げるようにしています。

クーラー

レッサーパンダは、中国からネパールにかけての高山地帯に棲んでいて、暑さに極端に弱い動物です。気温が25℃を超える頃から辛そうにしていますが、さらに気温が高くなると、体温が上昇して熱中症で死亡することもあります。

レッサーパンダにとって高温多湿な日本の夏に外で過ごすことは困難です。そのため、多くの動物園では、屋外の展示場以外にも、写真のようにクーラーを備えた屋内展示場を備えています。

記録的な暑さが続いた今年の夏は、熱帯夜になることも多かったので、扇風機とクーラーが大活躍でした。

飼育日誌

6/12 ☼ 今年生まれたイヌワシに、個体識別のためマイクロチップ埋込と体重測定を実施。（第１ヒナ4,100g、第２ヒナ3,100g、第３ヒナ3,150g）
6/16 ☂ アシカ「ナナミ」エサのホッケを丸飲みできるようになった。
6/18 ♣ カンガルー「ロベルト」死亡。
シロフクロウ営巣行動が見られる。
6/19 ♣ 今年生まれたライオンに、個体識別のためマイクロチップ埋込と体重測定実施。（第１♂14.7kg、第２♂13.9kg、♀14.2kg）
6/21 ☼ イヌワシ第１ヒナ、巣立ちを確認。（76日令）
6/23 ☼ チンパンジー「ユミノスケ」♂、「ノリコ」♀ペアと「ココ」♀、「ｋ太郎」♂の同居を行う。
6/25 ☼ チンパンジー「ユミノスケ」♂、「ノリコ」♀ペアと「ココ」♀、「ｋ太郎」♂の２回目の同居を実施。「ユミノスケ」♂が興奮し「ココ」♀を激しく追いまわし同居失敗。
6/26 ☼ イヌワシ第２ヒナ、巣立ちを確認。（77日令）
6/29 ☼ イヌワシ第３ヒナ、巣立ちを確認。（76日令）
7/9 ♣ コモンマーモセット出産。
7/11 ♣ セントクロイ「ビビ」♂誤嚥性肺炎のため死亡。
7/16 ♣/☂ コモンマーモセット９日生まれの赤ちゃん死亡。（♂、体重25.5g）
7/19 ☼/☂ モモイロペリカン、脱出防止のため伸びてきた風切り羽を切羽。
7/25 ♣/☂ シュバシコウ繁殖個体、巣立ち確認。
7/27 ☼ レッサーパンダ、2005年生まれ「飲飲」♂を2004年生まれ「風」・「陸」兄弟と同居。
サフォーク（雑）「KABA」死亡。
8/5 ☼ 「サマースクール」１回目
8/7 ☼ 「サマースクール」２回目
8/12 ☼/♣ ニホンリス、巣箱内にて赤ちゃんを確認。
8/14 ☼ 「夜の動物園」１日目
8/15 ☼ 「夜の動物園」２日目
8/16 ☼ 「夜の動物園」３日目
アビシニアコロブス♂、朝から横臥しぐったりしている。
ニホンリス、赤ちゃん１頭死亡しているのを確認。
8/17 ☼ 「夜の動物園」最終日
8/18 ☼/☂ アビシニアコロブス♂、動けるようになった。
トナカイ♂、熱中症にかかり治療。
8/19 ☼ トナカイ♂、朝死亡を確認。
8/28 ♣/☂ モモイロペリカン、脱出防止のため伸びてきた風切り羽を切羽。
8/31 ☼ アメリカビーバー♀、展示場にて事故死。
ワピチ♂、角の皮がほとんど剥け目つきがやや鋭くなってきた。
ベンガルトラ「マドンナ」♀、食欲不振が続き下痢をしている。
9/1 ☼ ライオン「ヴェヴェ」♂、歩行がぎこちないためCaの投与をする。
9/2 ☼ ライオン「ヴェヴェ」♂麻酔下にて治療。
ベンガルトラ「マドンナ」♀、元気が無く残餌有り。
9/7 ♣/☂ タンチョウ「嘴有り」♂、体重測定と採血実施。（体重7.54kg）
9/14 ☼ ベンガルトラ「マドンナ」♀、死亡。
9/15 ☼ 飼料作物「スダックス」秋田市立浜田小学校３年生との共同刈り取り実施。
9/16 ♣ カンガルー「赤ちゃん」袋から尾だけ出していた。
9/17 ♣ コクチョウ、１個産卵確認。
9/18 ☂/☼ 動物愛護フェスティバル開催
台風13号による、強風のためコウノトリ、シュバシコウ展示場から避難させる。
9/20 ☼ 台風の影響が無くなったのでコウノトリを展示場へ。
ライオン「ヴェヴェ」♂、元気になったので久しぶりに３頭一緒に展示場へ出す。
9/21 ☼ 人工哺育中のチンパンジー「J太郎」を他のチンパンジーとの同居訓練のため病院からチンパンジー舎へ移動する。
9/22 ☼ ワピチ（長男）2005年生まれ♂、父親を警戒し柵の間に逃げこんでいる。
9/24 ☼ チンパンジー「J太郎」♂、「ノリコ」♀が展示場にいる間にノリコの室内で過ごす。
ワピチ長男、父親から攻撃をうけ負傷。抗生物質投与。
9/27 ☼ チンパンジー「J太郎」♂と「ノリコ」♀、部屋越しに見合いを行う。
9/28 ♣ ワピチ父親単独展示のため移動。母親と長男、今年生まれの個体３頭同居。
ライオン「ミミ」♂、元気が無く歩行困難なため治療開始。
10/1 ☼ リス♀、死亡しているのを確認。

2006 飼育動物数

（平成18年8月末現在）

哺乳類	62種類	363点
鳥類	60種類	246点
爬虫類	14種類	38点
両生類	４種類	17点
魚類	４種類	24点
合計	144種類	688点

編集後記

「ホットインフォメーション」で紹介しましたジャズフェスタ。実行委員会を立ち上げての初の試みであり準備に非常に大変な苦労をしましたが、最後に救ってくれたのはお客様のステージを見つめる熱いまなざし、そして鳴りやまない盛大な拍手でした。今後も当園では新しい事にどんどんチャレンジいたしますので皆様どうぞ応援よろしくお願いします！

阿部　杏子

飼育レポート

「出前ふれあい教室」を実施して

飼育展示担当
近藤　百愛

今年度から動物園のスタッフが、実際に学校へ行っての「出前ふれあい教室」が試行的にスタートしました。生き物に直接触れたり、親しんだりする機会が不足している現在、動物とふれあうことで「いのち」を考えるきっかけになってもらえたらと思っています。命が大切なものだと頭ではわかっていても、生き物との距離がだんだん遠くなり「いのち」の実感がつかみにくく、「いのち」を感じる実体験が不足していると言われる今の時代、どのように「いのち」を伝えていくのか、これからの動物園が果たしていく重要な役割の一つとなるでしょう。

「出前ふれあい教室」では動物園で実施している「ふれあい教室」と同じようにウサギ、モルモットなどの小動物に触ったり抱っこすることが出来ます。動物を抱っこした経験のない子どもの中には、動物のツメがあたると「痛い」と大騒ぎをして放り出してしまう場合があります。きつく抱かれている動物の立場にたって考える余裕もなく、動物は自分を気持ち悪くて痛くする存在となってしまうのです。動物も生きているんだと気づくことで、動物の立場に立って考え、どう抱っこしてあげたら安心してくれるかを考え工夫していくうち、初め緊張しこわばっていた顔が動物が安心していくのを感じて笑顔に変化していきます。

しかし、動物に触ってただ可愛かった、触れて良かっただけでは何の意味もありません。その後にどうするのかが子ども達の「いのち」の実感にとって重要になってくるのではないでしょうか。動物園ではそのためのきっかけを作る事はできても、その後に携わっていくことが困難です。子どもたちの「いのち」の大切さを実感するためには教師、学校、保護者、動物園などが連携していくことが大事なのではないでしょうか。

動物病院から

ワピチの移動

飼育展示担当（獣医師）　高橋　広志

ほとんどの草食獣にとって秋から冬にかけては恋の季節。普段は扱いやすい動物たちもこの期間は大変気が荒くなり飼育担当者が危険にさらされます。

先日、凶暴になってきたワピチのオスを隔離するため、展示場を移動させる作業がありました。オスのワピチは、草食獣とはいえ体重３００kgを越える体に大きくて鋭い角をもつある種猛獣です。人が展示場に一緒に入ってウシやウマのように誘導する事などまずできません。

それならば、麻酔をかけて動けないところを運べば簡単そうに思えますが、完全に眠って脱力した巨体を人の力で運ぶのは不可能に近い業です。泥酔した人間１人を運ぶのにも、大人３人掛かりになるのを想像すれば納得してもらえるでしょうか。

そこで、ボーっとして人に危害を加えない程度の浅い麻酔（鎮静といいます）をかけて、自分の脚で歩いて移動してもらうことにしました。

口で言うのは簡単ですが、正確な体重は分からないし、麻酔薬も吹矢で何本も射つことになります。また、麻酔が強すぎて倒れ込んでしまったら元も子もなく、直前までいろいろと心配事は絶えませんでした。麻酔が効き始めると、ワピチはふらふらと立っているのがやっとの状態になって、千鳥足ながら隣の展示場へすんなりと移動してくれました。

大きな動物に麻酔をかけるのは、いつもながら心身共に疲れる仕事です。

かたばた通信

【第29回親と子のふれあい写生大会】

今年の写生大会から、秋田市造形教育研究会が共催となり、より充実した指導体制をしくことができ、提出された絵はどれも素晴らしい作品となりました。

秋田市長賞

佐々木 瞭君（ささき りょう）広面小学校5年 **「クマタカ」**

どっしりと枝をとらえた爪、たくましい足、獲物をねらうような鋭い嘴と目、力強く迫力満点です。

秋田市議会議長賞

須藤創太君（すとうそうた）新屋幼稚園

「かめのすべりだい」

甲羅の模様や、あしの模様に、いろいろな色をつかって力づよくかかれています。

【第32親子サマースクール】

8月5日、7日の2日間開催したサマースクールには12組36人の参加があり、普段は体験できない飼育作業に汗を流していました。午後からは、飼料作物の「スダックス」を自分たちで刈り取りゾウにプレゼントしたりザリガニ釣りなどをして夏休みの思い出をつくっていました。

【ペンギン舎の清掃】

【スイカを食べようとするダイスケ】

【夜の動物園】

夏の恒例イベント、夜の動物園は8月14日～17日までの4日間開催されました。今年も大勢の来園者が日中の暑さを避け、幻想的な夜の動物園を満喫していました。

ゾウの「まんまタイム」では、オスのダイスケが豪快に好物のスイカを食べる姿に歓声があがっていました。

このスイカは「うごＪＡ」様より格安でわけていただきました。

【敬老の日イベント】

（愛護フェスティバル）

敬老の日にちなみ、長寿動物たちに豪華なエサをプレゼントしました。ポニーの「マーブル」には草と野菜で作ったケーキがプレゼントされ、美味しそうに食べるマーブルを見ようと多くの来園者が集まっていました。

【草のケーキを頬ばるマーブル】

お知らせ

11月26日（日）

「さよなら感謝祭」開催

動物慰霊祭、フォトコンテスト表彰式など

※今年の開園は、11月30日までです。

冬期開園は、1、2月の土日祝日

（正月3が日を除く）

発行所　秋田市大森山動物園　〒010-1654　秋田市浜田字潟端154　3018-828-5508　5018-828-5509

発　行　小松　守　URL http://www.city.akita.akita.jp/city/in/zo/　E-mail ro-inzo@city.akita.akita.jp

編集委員　木村俊夫、千葉直子、阿部杏子、西村裕之、高橋広志、柴田典弘、安永千秋

印　刷　(株)フロム・エー